

韓国の印刷産業と印刷学会
—韓国印刷学会創立25周年記念国際学術講演会に参加して—
故丸山和夫氏の追悼論文

国際印刷大学校学長・九州産業大学名誉教授
工学博士 木下堯博

1、はじめに

2007年4月18日、韓国印刷学会4月20日開催に参加するため福岡から **Incheon** 空港に向かった。空港の周辺及びソウル市内に向かう道路周辺は桜で満開であり、つつじ、木蓮など一斉に開花し、昨年の **IPEX2006** で行ったロンドン市内の風景と似かよっていた。

3月末に渡韓した折はソウルの **Grand Hyatt Hotel** で米韓 **FTA** 会議があり、市内は緊張していたが、この期間は静かで色とりどりの風景を楽しむことが出来た。米韓 **FTA**(自由貿易協定)会議は農業分野を除き成功し、韓国経済の発展と東アジアの経済成長のため喜ばしいことであろう。(1)

2004年12月のパルミサーノ・レポート「**Innovate America**」(2)の刊行以来、各国では **Innovation** (技術革新+全体最適)の取り組みが活発である。世界経済の統合とテクノロジーの進歩がグローバリゼーションを確立して来た中での「競争」が一段と活発になった。

韓国では知的財産を積極的に取り組み特許出願も公開まで10ヶ月という世界最短となった。ソウル市内の特許庁分室(本庁は大田に移転)「**Korean Intellectual Property Office (KIPO)**」は受付や相談の窓口が多く、いつでも誰でも対応できる体制をとっている。(3)この入口には韓国の印刷の発明の原点であり、ユネスコから **Memory of the World** の受賞をした直指(1377年)の金属活字と印刷物のサンプルが展示してあった。特許庁分室の近くには日本と同様、弁理士の事務所が点在している。その内に1社のタサン弁理士事務所では印刷は「精密化学」の分野に該当し、その中の項目の審査部門として「印刷・複写・コピー」「電子写真・デジタル」「半導体」などがあるとの説明を受けた。日本の **HP** で韓国での特許出願の内容の一部を本人の了解を得て、英文で公開している。

ソウル市内はあらゆる分野の情報が集中していて、別府市にある立命館大学アジア太平洋大学(**APU**)の分室もあり、企業や高校などとの交流を行なっている。また、ユピキタスセンターで国民生活に直結した **RFID** の実演などを展開している。

2、韓国印刷学会創立25周年記念国際学術講演会

2007年4月19日の夜、**Somerset Palace Hotel** にて夕食会があり、国際会議で発表する講師と韓国印刷学会会長(株)斗山印刷副社長呉圭南氏)、副会長、担当理事が参加して、プログラムの確認と進行などの打合せがされた。

4月20日の14時から韓国印刷学会創立25周年記念国際学術講演会が成均館大学校600年記念館で開会され、あいにく雨足が強く開会が若干遅れた。

講演1、大韓印刷文化協会会長 洪祐東氏 「印刷文化と印刷産業」

印刷文化の振興、印刷産業の課題、IT技術と印刷技術、先端印刷の現状、高精度印刷、共同化と発展などの講演が行われ、日本の印刷界の現状に類似していた。

講演2、日本印刷学会会長・東京大学名誉教授 尾鍋 史彦氏

「新しい印刷科学からみた紙メディア学の可能性」

印刷と紙の歴史的考察から紙メディアの持つ人間との親和性の重視であり、紙メディアの物性機能だけでなく、感性機能にかかわる心理物理学、認知科学、メディア理論などの諸理論を紙メディアの解析に導入することである。近年、脳科学の発展が著しく文理融合型の学問として究明していかなければならないと結んだ。

講演3、シュッツトガルトメディア大学 トーマスホフマン・ワルベック教授

JDF – Integration and Automation

1, JDF-Integration by an example

2, Introduction into the JDF-Technology

3, Possibilities for simplification and automation via JDF

4, Prerequisites for and consequences of the JDF-integration

5, Current challenges with the JDF-integration などでハイデルベルグ社のシステムの例を引用した講演が展開された。

講演4、中国北京印刷学院 蒲嘉陵 教授

1、印刷の定義

2、紙上のインキ

3、電子ペーパー

4、中国の印刷産業

中国印刷産業は2005年で約4兆円の出荷額があり、その内訳はパッケージ35%、商業印刷25%、新聞印刷15%で、地域別では香港、深圳33.3%、上海地区33.3%、北京地区10%となっていて沿岸部で印刷産業が活性化している。

印刷企業数は18万社、従業員は340万人といずれも桁違いに多い。印刷出版の伸びはGDPの伸びを上回り、成長が著しい。2010年8%、2020年はそれに近い伸びを示すと予想されている。

かつて、1996年9月2日、北京印刷学院と中国印刷博物館を九州産業大学3回生学生13名の引率をして、日中印刷学術見学会をした。その時、蒲嘉陵教授にキャンパスを案内して頂いた。(4)

(写真1)

講演5、韓国ブランド協会会長 金光奎氏

コンピュータアニメーションの映像作品の紹介と各種デザインの事例紹介。

結論として新しい未来の創造はアイデアが左右するとした。

講演会終了後、韓国印刷学会の新しい HP (www.kgcs.org) の紹介、学術論文投稿システムなどの報告があり、同じフロアの **Faculty Club** で懇親会があった。この席で日本印刷学会会長尾鍋史彦氏が韓国印刷学会に対し、25周年記念の盾を贈呈した。(写真2)

この講演会と懇親会はすべて無料で、会員であれば自由に参加が出来、学生会員が中心となって活躍をしていた。大学と企業が協力して、韓国印刷学会を盛り上げ、老・壮・若のバランスがとれた組織であった。

著者が23歳で日本印刷学会中部支部の理事になったが、その当時の運営は積極的活動を展開したことを思い出した。日本印刷学会中部支部50周年記念誌を参照して下さい。

(5)

3、韓国印刷学会との交流

韓国印刷学会との出会いは1978年の釜山工業専門大学（現在・釜慶大学校）の故金成根教授との交流から始まった。

この釜山工業専門大学（現在、釜慶大学校）の印刷工学科は1978年に設立され、金先生は工業化学科から新しい印刷工学科の主任教授になられ、日本の印刷系大学との交流と専門書籍の入手を目的としてしばしば来日され、ご家族とも親しくなった。

1980年7月17日釜山工業専門大学の招待により、同大学で講義(6)をする機会があり、この時が初めての渡韓であり、印刷の発達と1980年4月シカゴの **print80** の内容を加えた講義内容であった。

その後、1982年7月、福岡市で九州産業大学が主催し、「国際印刷教育会議」を開催した。韓国から釜山工業専門大学、釜山産業大学校、仁川専門大学、東北工業専門大学、釜山工芸高校、台湾から中国文化大学の参加があり、合計13の印刷教育機関の出席により講演と討論が行われた。

1988年、設立間もない韓国印刷学会から印刷教育研究会への招待があり、同会の会員及び賛助会員メンバーが渡韓し、釜山市のソラボールホテルで交歓会が行われた。故丸山和夫氏の参加もあり、感謝状が贈呈された。同時に、九州産業大学、釜山工業大学の学生の相互交流により、若い世代への交流を果たした。この時、世界遺産になった海印寺の八万大蔵経も見学した。

1994年、釜山工業大学で韓国印刷学会と印刷教育研究会との **Joint Meeting** が開催され、8編の論文発表が行われ、韓日印刷教育協議会の設立が提案された。(7)

1996年2月、韓国印刷学会の活動をされていた金成根教授がお亡くなりになり、大学葬に出席した。21世紀に国際グラフィックアーツ大学の設立に関し積極的に中国、ロシアとの交流を図っておられた。この時期に清州古印刷博物館で「直指」の研究(8)が国際的に進められていて、ユネスコの指導により、1998年には **Gutenberg Jahr Buch** に「**Early Printing History in Japan**」の論文を発表した。(9)

2000年11月、韓国機械材料研究所で「オフセット印刷機による印刷適性」を講演し、2001年3月、韓国印刷学会誌に掲載した。(10)

2001年6月9日、韓国の中部大学校での韓国印刷学会国際会議で「**The Virtual University in the World & Establishment of International Graphic Arts & Printing University**」を発表し、モスクワ印刷大学のチガネンコ学長との出会いがあり、ロシア、中国、東欧を中心とした印刷教育研究会の紹介を受けた。

2005年8月に日韓印刷学術・文化交流25年を記念し、論文(11)を刊行した。

2006年12月30日、日韓印刷学術文化交流27年の潮流と題し、日本語と韓国語の小論がある。(12)

著者は50回以上の海外学術・文化交流の内、その半分は訪韓で、ようやくその国民性などを理解することが出来るようになった。

4、まとめ

今回の国際学術講演会は印刷および関連企業からの寄付により実行され、参加費は無料で若い世代に開放されていた。故金成根教授が韓国印刷学会を設立され、1979年より大学での講義が始まる前、朝7時から印刷工学科の学生に対し、日本語の教育を続けられた。卒業生は日本語に精通し、コミュニケーションが出来るまで成長し、韓日交流に大いに役立っている。

なお、1988年、1994年日本の印刷教育研究会と韓国印刷学会との交流には印刷出版研究所編集部長の故丸山和夫氏の参加と事務局として協力され、更に2007年3月19日の印刷新報、同年3月31日刊行の印刷教育研究(13)に4月20日の韓国印刷学会創立25周年記念国際学術講演会の記事を掲載して頂き、感謝しています。

東京目黒の桐ヶ谷斎場の4月20日の葬儀には家内が急遽上京し、国際印刷大学校と印刷教育研究会として生花を献花した。著者は韓国印刷学会に参加を決めていたので、はるかソウルの地から丁重にお祈りを捧げました。

1985年9月の印刷教育研究会の設立から23年間、事務局として誠実に支えて頂きました。又、長年、印刷系教育機関の教科書「基礎写真製版」(14)、「印刷及び画像材料」(15)「コンピュータとデザイン」として各教育機関で使用された教材の編集や印刷情報、印刷新報、プランナーなど数々の著述に精魂をこめられた故丸山和夫編集長に対し、感謝申し上げます。ここに謹んで哀悼の意を表し、この小論を追悼論文(印刷情報2007年6月号)として墓前に捧げます。

(2007年4月21日、ソウル市 **Somerset Palace Hotel** にて記)

参考文献

- (1) 木下堯博；印刷の国際化の近未来、印刷新報（創刊50周年記念号）
(2007年4月19日)
- (2) **Council on Competitiveness , Innovate America (2004)**
- (3) **Lee,Hee-Deuk; KIPO Patent Examiner (2007年4月19日)**
- (4) 木下堯博；印刷情報56[12]pp40～46（1996）
- (5) 日本印刷学会中部支部創立50周年記念誌（1997年3月29日、
名古屋キャスルホテルにて印刷産業のデジタル化導入と将来展望を講演）
- (6) 木下堯博；印刷情報40[9]pp57～62（1980）
- (7) 木下堯博；プランナー31[10]pp63～67（1995）
- (8) **Akihiro KINOSHITA ; The Development of Modern Japanese Printing Technology, Printing and publishing Culture, Proceedings of the 3rd International Symposium, pp155～184 Cheongju Early Printing Museum, Korea (September 28～29,2000)**
- (9) **Akihiro KINOSHITA ; Gutenberg JahrBuch [73]pp31～35（1998）**
- (10) **Akihiro KINOSHITA & S. NAM; Bull.of Korean Printing Society, 19[2]pp1～11（2001）**
- (11) 木下堯博；日韓学術文化交流25年（2005年8月） www.media-igu.com
- (12) 木下堯博；MDC Report 創刊号（2006年12月30日）
www.media-igu.com/kinoshita
- (13) 木下堯博；印刷教育研究、持続可能な社会と韓国印刷学会創立25周年記念
[22]pp14～15（2007年3月）
- (14) 木下堯博ら編著；基礎写真製版（1980年3月初版）
- (15) 木下堯博ら編著；印刷及び画像材料（1984年6月初版）
- (14)、(15)の原稿料、印税などを原資として印刷教育研究会が1985年に設立され、初代会長木下堯博で、故丸山和夫氏が事務局を担当し、韓国印刷学会とも交流した。
なお、この論文をまとめるにあたり、(株)斗山印刷の皆様の協力を頂きました。ここに謝意を表します。

資料 別紙

写真1 学会終了後 **Somerset Palace Hotel** で

右から北京印刷学院蒲嘉陵教授、尾鍋史彦会長、筆者の順

写真2 日本印刷学会会長尾鍋史彦氏が韓国印刷学会会長呉圭南氏に対し25周年記念の盾を贈呈。

写真左 尾鍋史彦氏、写真右 呉圭南氏



写真 1



写真 2